

読書で人づくりを!



大谷 弥生 議員

本市は、子どもの読書活動推進計画の策定作業に入った。子供の読書活動を促進するためにも、妊娠前から切れ目のない読書環境を整えるべきと考えられているか。

健康福祉部長

妊娠5カ月頃から、お母さんの優しい語りかけの声はお腹の赤ちゃんに伝わる。妊娠中からの読書活動は、乳幼児期にわたる親子の愛情形成を促すことにもつながり、大切なことであるので、今後関係機関で連携し取り組んでいきたい。



▲8カ月児健診時の絵本の読み聞かせ

◆下水道施設の更新

問

水処理センターを始めとする公共下水道施設は建設から約40年が経過する。今後どのように更新していくのか。

上下水道部長

同施設は集中的に整備した時期があるため、全ての施設を耐用年数に応じて更新することは難しいと考える。下水道事業を安定的に継続するため、適正な維持管理や長寿命化対策を実施すること、一定の期間に施設の更新が集中しないよう調整して取り組んでいきたい。

南部地域に中長期的な計画・戦略を!



杉田 光 議員

本市南部地域は、今後の市税増収や市全体の活性化において、高い可能性を有している。同地域の中長期的な計画や戦略を立ち上げるべきと考えられているか。

政策推進部長

平成28年度から総合的なまちづくりの指針として第7次足利市総合計画がスタートした。これは各分野における施策の概要を示しており、南部地域においてもこの計画に沿って地域特性を生かした事業の展開やこの地域の課題解決に向けた取り組みを着実に進めていきたい。

◆南部地域の治安維持

問

近年、御厨・梁田地区は人口が増加しているが、交番や駐在所などの警察施設がない。治安維持のため、県に配備の見直しを強く要望すべきと考えられているか。

市長

記者時代を含めて警察組織には人脈があるので、地元からの要望や犯罪発生状況等を考慮し、要望をきめ細やかに県警本部につないでいきたい。



振り込め詐欺等の対策を!



富永 悦子 議員

悪徳商法や特殊詐欺など高齢者を狙った詐欺事件が後を絶たないが、本市での被害状況を聞きたい。また、その対策として被害に遭わないように注意を促す手形ポップを受話器に取り付けてはどうか。

生活環境部長

足利警察署によると平成27年中に管内で発生した被害はオレオレ詐欺など13件、被害総額は6千200万円にのぼる。その対策として高齢者には一目でわかるものが効果的であり、手形ポップを含めた消費者啓発について検討を進めていきたい。



◆熱中症対策の推進

問

小中学校における熱中症の予防対策と体育館への温度計、湿度計、熱中症計の配備状況を聞きたい。

教育長

熱中症対策については、各小中学校の活動の中で毎日の健康観察、水筒の持参、活動中の水分補給や休憩、熱中症の危険性が高くなった場合の活動中止などを実践している。また、温度計は20校、湿度計は15校、熱中症計は12校に配備されており、未配備の学校については早急に配備したいと考えている。